

普及センターだより

くりはら

第120号



思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木5-1
 TEL 0228-22-9404 (地域農業班)
 0228-22-9437 (先進技術班)
 FAX 0228-22-5795, 6144
 E-mail khnokai@pref.miyagi.jp
 URL <http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/>

宮城県栗原農業改良普及センター



農産物直売所出荷者向け POP研修会

生産者の想いを消費者へ積極的にPRする手段として、POPの作成と活用についての研修会を開催しました（POPとは、店内に表示される広告のことです。今回は商品情報を盛り込んだオリジナルPOPを作成しました）。



わかやなぎ農産物直売所くりでん

「栗原地域の農業・農村」の再生・発展に向けて

昨年の3.11の東日本大震災で、栗原地域の農林業の被害額は約26億円となりましたが、農業者や関係者の懸命な努力で復旧は進みつつあります。一方、福島第一原発の放射能漏れ事故により、一部の栗原産のきのこ、牛肉、大豆、米、牧草、稲わら、たい肥等で放射性セシウムが検出されています。実態把握や農家経営の正常化、技術対策の確立等が課題であり、市やJA栗っこ等と連携しながら、栗原産の農林水産物の安全・安心確保に向けて今後も地道に取り組んでいきます。

昨年10月に策定された「宮城県震災復興計画」では、津波被害の大きかった沿岸部を中心に、農業・農村モデルの構築やアグリビジネス振興による「先進的な農林業の構築」を目指しています。栗原地域では、本計画と「みやぎ食と農の県民条例基本計画」を基本とし、儲かる栗原農業の実現に向けた支援を引き続き展開いたします。

昨年の地域農業の二大ニュースは、3月の「瀬峰

地区循環型農業推進会議の日本農業賞大賞受賞」と、7月の「わかやなぎ農産物直売所くりでんのオープン」でした。

二事例とも、地域や消費者との絆を大切にし、地道でありながら、時代や農業者・消費者の意識変化等を受け止めたアイデアあふれる取組です。このような取組が栗原地域全体に広がる様な支援を今後も展開して参ります。

県北で生まれ・育ち、栗駒山に見える農村風景が大好きです。都会の親子が、栗原のファンとなり、瀬峰や若柳等の田園や里山の道（フットパス）を歩き、田んぼの白鳥を見たり、途中の農村レストランで食事をしたり、直売所で栗原の農産物を買って帰るようなつながりが未来の風景となるかも知れません。

栗原農業改良普及センター技術副参事 岡本 栄治

シリーズ プロジェクト課題

No.6 「地元酒蔵との連携による醸造米産地づくり」

栗原は、「くりはら米」として県内でも有数の良食味米産地ですが、主食用米の需要は、全国ベースで毎年5万～10万t程度減少しつつ米の産地間競争のますますの激化が予想されます。このようなことから、多方面への米の供給を視野に入れた産地づくりが必要と思われます。

栗原市内には4つの蔵元があり、一部の生産者は、蔵元と提携し原料となるお米を提供しています。

普及センターでは、このような取組を多方面への

米の供給の一つと位置づけ、平成22年から生産者と蔵元との新たな提携により、醸造用米の作付面積の拡大を目的に活動を行ってきました。

平成23年度は、『地元産の蔵の華（くらのはな）があれば、使用したい』という地元の蔵元の意向を受け、試験ほ場を設置し生産支援を行っています。

また、日本酒を含めたお酒全体の消費量が年々減少傾向にあることから、消費拡大に向けた取り組みも予定しています。

No.7 「耕畜連携循環型農業の推進によるスランドの創出」

栗原市には築館、金成、栗駒の3地区にたい肥センターがあり、重要なたい肥の生産拠点となっており、耕畜連携循環型農業を進める上でもその役割が期待されています。

製品たい肥の認知度や稼働率が課題となる施設もありますが、有機センターたい肥を一度でも利用した耕種農業者は、その品質の高さ（ハンドリング、清潔感等）に魅力を感じリピーターとなることが多いようです。

今年度は、放射性セシウムの影響から有機センターのたい肥販売が8月からストップしている状況ですが、再開を待ちわびる声が大きくなっています。

普及センターでは、この声に応えるべく、早期の販売再開に向けてのサポートに取り組むと共に、耕畜連携の体制整備を支援していきます。



有機センターにおけるたい肥の品質管理



有機センターのたい肥を活用した野菜

No.8 「新規就農者等の営農定着促進」

管内の新規就農者数は、平成18年度から22年度までの5年間で51名となっています。

近年の傾向として、農外からの新規参入や両親と別部門を開始する事例、また、作物別ではいちごを導入する事例が増えています。

これらの新規就農者は、初期の設備投資額が大きいため、営農定着に向けて重点的に支援を行う必要があると考えています。

今年度、普及センターでは、いちご部門を新たに

開始した農業者3名を重点対象とし、栽培技術や経営管理能力向上に向けてマンツーマンで支援を行っています。

就農希望者は毎年増加傾向にあるため、就農前からの一貫した相談対応、営農計画の作成、就農後の発展段階別の支援について、栗原市、JA栗っこ、栗原農業士会等の関係機関と連携を強めて行っていくこととしています。



普及指導員・指導農業者によるマンツーマン指導

農業用廃プラスチック類は適正に処理しましょう!!



「畜産農家の法人化を核とした集落営農の推進」

金成地区にある上片馬合（かみかたませ）営農組合（組合長：菅原等，組合員15戸）は平成20年4月に設立しました。さらに繁殖牛経営を行う7戸が「上片モーちゃんクラブ」を結成，平成21年4月に法人を立ち上げました。平成22年7月には県内初の取り組みとなる共同和牛ほ育苗成事業を開始，普及センターでは新規法人の組織運営や飼育技術について支援しています。

営農組合の作付は，水稻17ha，飼料作物13.5haであり，和牛繁殖経営に対する飼料作物の供給を行っています。平成25年までに集落営農法人設立の計画を掲げていることから，法人化を見据えた営農組合のステップアップを目指した活動に取り組んでいます。

集落営農の進むべき方向について，女性や後継者まで含めてアンケートを行ったところ，多くは機械の効率的利用を望んでいました。また，女性を中心に自給野菜，自家用農産加工品の技術向上を図り，

場合によっては販売に結びつけたいと考えていることがわかりました。平成23年度は，集落営農の発展へ向けて，機械の共同利用の仕組みや事例についての研修会や，自給野菜の栽培，活用方法に関する勉強会を行っています。



集落営農検討会の様子

放射性物質による汚染に対応した 食の安全・安心の確認について

福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が放出され，管内でも農産物や林産物，牧草，牛肉の一部，土壌など幅広い品目から放射性物質が検出されております。

県では，3月の下旬から農産物の放射能測定を東北大学の協力を得て開始し，管内の農産物では，4月25日のハウレンソウから調査を開始し，トマト，モロヘイヤ，キュウリ等を順次調査してきましたが，現在のところ野菜，果樹では，暫定規制値以下となっています。また，米，大豆，そばについては，民間の検査機関を活用して調査しましたが，全て，暫定規制値以下となり，出荷等ができる状態となっております。

また，11月からは，農林水産省の協力により，放射能測定機器を導入し，管内の野菜や豆類，土壌，もみ殻等を検査計画に基づき検査しており，12月12日現在で，食品79点，非食品33点を報告しております。今後も，JA栗っこや直売所等の協力を得て，順次，サンプリングを行う予定です。

さらに，県内全域の土壌についても放射性物質の調査を行うこととなりました。栗原管内では，200カ所程度の耕地土壌をサンプリングして，検査を行います。検査結果については，3月頃，土壌マップとしてお知らせする予定です。

ホームページへのアクセスも お待ちしております

<http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/>

当普及センターでは，ホームページにおいて，稲作通信や果樹生育情報を始めとする各種技術情報や管内のニュースなどを随時更新しております。

今後も，イベントのお知らせや新着情報の欄をより一層充実させていきますので，多くの方のアクセスをお待ちしております。



みやぎ食料自給率向上運動実施中！「将来へおいしいみやぎ 伝えよう」

環境保全型農業を実践する エコファーマーの認定を受けましょう

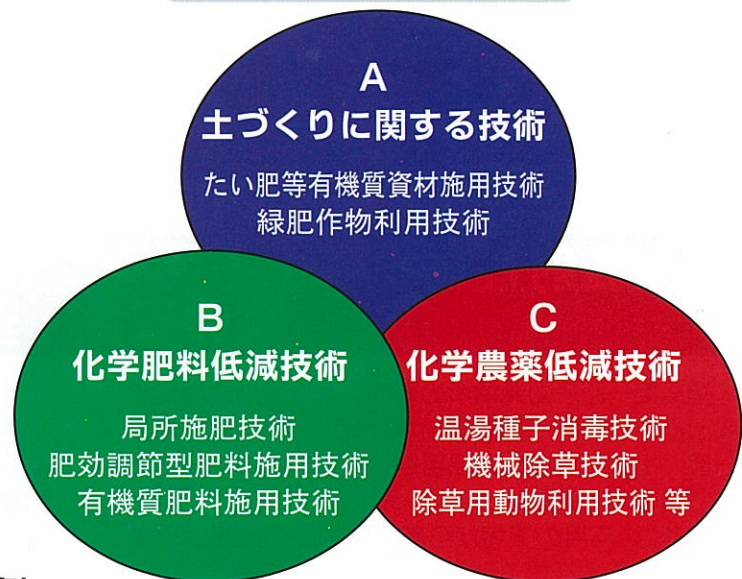
宮城県では、土づくりと化学肥料、化学農薬の低減を一体的に行う「持続性の高い農業生産方式」を導入し、環境保全型農業に取り組むエコファーマーを認定しています。栗原管内のエコファーマー認定者数は752人です（平成23年12月現在）。

認定を受けるには

宮城県の「持続性の高い農業生産方式導入指針」に基づき、導入作物ごとに定められたA、B、Cの技術から各々1つ以上（1つ以上の新規の取組が必要）選択し、導入計画を作成する必要があります。

詳しくは、栗原地域事務所農業振興部まで御相談ください。

認定に必要な3つの技術



導入計画の認定を受けると

1 農業改良資金の貸付に関する特例

農業改良資金を借り入れた場合、償還期間が延長されます。
10年（据置期間3年）→12年（据置期間3年）

2 環境保全型農業直接支援対策への参加

エコファーマーの認定を受け、農業環境規範に基づく点検を行っている販売農家が以下のいずれかの取組を行う場合、上限8,000円/10aが交付される見込みです。

参加される方は、6月30日までに栗原市へ申請書を提出することとなります。詳細は栗原市産業経済部農林振興課（0228-22-1135）にお問い合わせください。

- ① 化学肥料、化学合成農薬の5割低減の取組＋カバークロップの作付
- ② 化学肥料、化学合成農薬の5割低減の取組＋リビングマルチ又は草生栽培
- ③ 化学肥料、化学合成農薬の5割低減の取組＋冬期湛水管理
- ④ 有機農業の取組（第三者による認証が必要となります）

エコファーマーの再認定はお済みですか？

エコファーマーの認定期間は原則5年間となります。平成18年度に認定を受けた方は、平成24年3月が認定の期限となりますので御注意ください。

再認定の手続については、栗原地域事務所農業振興部に御相談ください。

農薬は使用方法をラベルをよく確認し、正しく使いましょう

平成23年度 稲作の総括

作況指数103となった平成23年度稲作を振り返ります。

1 生育の概況

(1) 育苗期

4月7日の地震による停電で、播種日が遅れた地点が多く見られました。4月は全般に低温で推移しましたが、多照少雨で経過したことで、苗はおおむね順調に生育しました。またカビ等の障害の発生は少なく済みました。

(2) 田植期～6月

5月下旬の強い低温により初期生育が影響を受け、分けつの始まりが遅くなりました。6月に入ってから高温で経過しましたが、茎数の増加は平年を下回った地点が多く見られました。

(3) 7月～出穂期

7月も高温で経過したため、生育は順調でした。7月10日と7月20日の生育調査では、草丈は全地点平年より長く、葉数も平年より枚数が多くなり、生育の進みが顕著となりました。高温は幼穂の生育にも影響を与え、田植日は大きく差がありましたが幼穂形成始期は「平年から1日遅い」～「平年より2日早い」と生育の差が縮まりました。

このまま出穂期は早まるものと予想しましたが、7月21日～23日にかけてのオホーツク海高気圧の影響による強い低温が幼穂の伸長に影響を与え、出穂期は「平年より1日遅い」～「平年より1日早い」と

平年に近いものとなりました。また一部で不稔の発生が見られましたが、収量に大きな影響はありませんでした。

(4) 登熟期

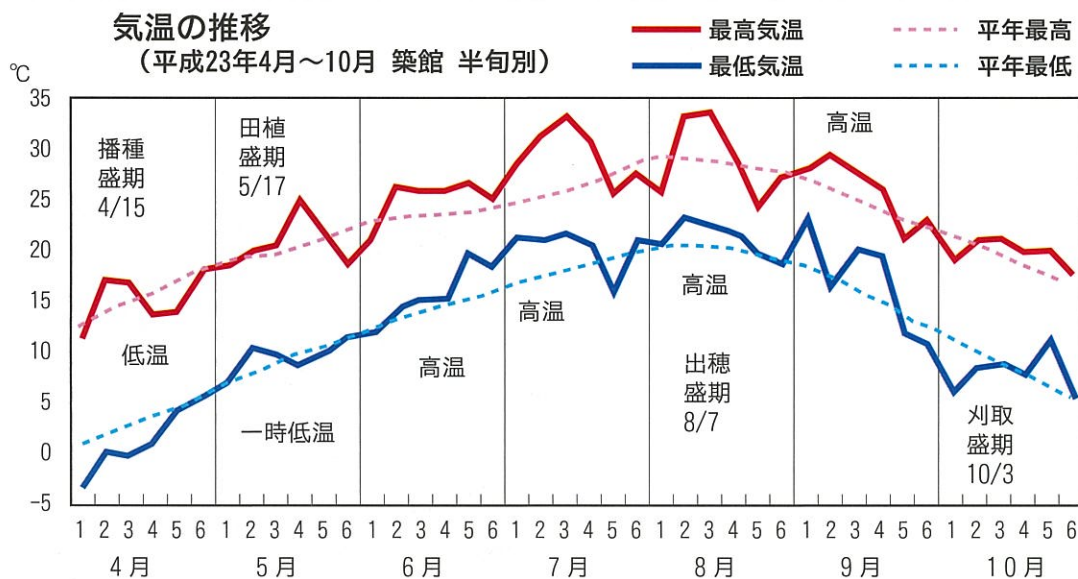
出穂期以降、9月中旬までの天候は周期的に変化しました。出穂直後となる8月上旬後半から中旬前半にかけては高温状態となりました。8月下旬に最高気温が上がらない時期がありましたが、9月に入っても比較的気温が高い状態が続いたため、登熟は比較的順調に進みました。成熟期は「平年より1日遅い」～「平年より1日早い」と平年に近いものとなりました。

成熟期以降、9月20日から21日にかけて台風15号が接近したため、一部で倒伏が発生しました。

2 収量構成要素

初期生育が不良だったために、全般に穂数が少なくなり、㎡当たり籾数も少ない地点が多く見られました。また籾数はやや少ないものの、登熟期間中は天候に恵まれたことで、登熟歩合は高くなりました。収量は、「平年よりやや少ない」～「平年並」とばらつきが見られました。

- ㎡当たり穂数：平年並から少ない
- 一穂籾数：ばらつきが見られる
- ㎡当たり籾数：平年よりやや少ない地点が多い
- 登熟歩合：平年並から高い
- 千粒重：平年並からやや小さい
- 精玄米重：平年並からやや少ない



トピックス

受賞おめでとうございます!

くりはらのりんご祭り

平成23年11月22・23日、栗駒みちのく伝創館にて、栗原市果樹連絡協議会主催による「くりはらのりんご祭り」が開催され、次の方々が受賞されました。

賞名	受賞者氏名	品種
栗原市果樹連絡協議会 最優秀賞 宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所長賞 栗原市長賞	鈴木 光博氏 (金成小堤)	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優秀賞 栗っこ農業協同組合長賞	伊藤 優幸氏 (金成末野)	王林
栗原市果樹連絡協議会 優秀賞 栗原農業共済組合長賞	千田 量男氏 (金成末野)	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優良賞	千葉 六郎氏 (金成末野)	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優良賞	田中 学氏 (金成小堤)	ふじ
栗原市果樹連絡協議会 優良賞	佐藤 光夫氏 (高清水)	ふじ

みやぎまるごとフェスティバル2011

平成23年10月16・17日に開催された「みやぎまるごとフェスティバル」の農林産物・花き品評会において次の方々が受賞されました。

宮城県農林産物品評会受賞者

部門・作物	賞名	受賞者氏名
水稲・うるち米	農林水産大臣賞 県知事賞1等(1席)	高橋 博氏 (若柳)
	県知事賞2等(3席) 宮城県農業協同組合中央会長賞	狩野 常幸氏 (栗駒)
野菜 トマト	県知事賞2等(2席) 宮城県農業会議会長賞	衛サンアグリわひめ (志波姫)

水稲・うるち米の部 農林水産大臣賞受賞

高橋 博さん



宮城県花き品評会受賞者

品目名	賞名	受賞者氏名
シクラメン	銀賞	千田 滋紀氏(金成)
パンジー	銀賞	岩淵 昭彦氏(若柳)

お知らせ

～「栗原4Hクラブ」で活動してみませんか?～

4Hクラブとは、主に若手の農業後継者で組織され、地域を担う農業者となるための自己研鑽と仲間づくりを目的とした団体です。

4Hとは：Head(頭脳)，Heart(心)，Hands(手)，Health(健康)の4つの頭文字で、四つ葉のクローバーがシンボルです。

栗原4Hクラブは現在19名の会員がおり、今年度は管内の新規就農者激励会、県北地区や岩手県南地区との合同研修および交流会、県農業大学校生激励会、栗原市産業まつりへの出店などの行事を通し、農業の仲間づくり、自らの資質向上、地域活性化への貢献につながる幅広い活動を行っています。

課題としては、メンバーの入れ替わりが少なく、活動の幅が狭まってきていることです。

そのようなこともあり、農家に限定せず一緒に

活動する仲間を随時募集しています!

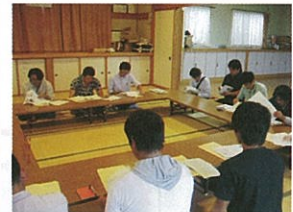
フレッシュな仲間集まれ!!

連絡先はこちら↓

栗原農業改良普及センター 地域農業班

電話：0228-22-9404

E-mail：khnokai@pref.miyagi.jp



農薬散布作業中、作業中の事故に注意しましょう